



夢・いっぱい

第11号

令和5年1月23日

2022年度の経営方針

今日の学び合いを楽しみ、明日が待ち遠しい学校づくり
～ 開かれた学校において、「愛宕の子」として地域と共に育てる ～

校長 栗林 孝幸

年の初めに

お天気もよく、穏やかで暖かなお正月でした。今年も元日に錦帯橋に行き、初日の出を拝むことができました。今年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、1月10日から三学期がスタートしました。「まとめと準備」の学期であると始業式に話しました。それぞれ今の学年でやり残したことはないでしょうか。やり残しのある人は最後まであきらめずがんばりましょう。また、次の学年の準備、特に心の準備が大切です。

二学期の終業式の時に、「ウサギとカメ」のお話をしました。「なぜ、カメは勝ったのか。ウサギが油断して昼寝をしたからなのですが、ウサギとカメの見ていたものに注目すると、ウサギはカメを見ていた。カメは？ そう、カメはウサギではなくてゴール、目標を見ていたのです。人との競争は自分を成長させるため、力を出し切るために必要なことかもしれませんが、勝ち負けにこだわりすぎず目標に向かってがんばりましょう。」そんな話をしました。人との比較や勝ち負けは避けては通れないことかもしれませんが、しかし、他者との過度な比較は、特に成長途中の子どもたちにとって弊害になることもあります。プロならば勝負や結果がすべてかも知れませんが、成長途中の子どもたちにとっては、それよりも過程が重要なのではないのでしょうか。テストの結果だけを見るのではなく、60点であっても日頃の努力を認める。試合の勝敗よりも、一生懸命練習に打ち込んだこと、試合に真剣であったこと、最後まであきらめなかったことを褒める。周りの大人が、どこを見てどこを認め褒めるのかによって子どもたちが学ぶことは変わってきます。つまりは大人の価値観が試されているのです。そういう意味でも子どもは大切なことを教えてくれます。子どもと共に学び合い、育ち合うことができればと思います。

